

会報

VOL.12



波止場町便り

2024年12月27日発行

記憶される港の風景

(その4)

波止場町から見る、神戸らしさ



記憶される港の風景(その4)

1. あの大震災から30年が、神戸にやって来る

年が明けると、あの阪神淡路大震災から、30年を迎えることとなる。メリケンパークには、その記憶をとどめるために崩れた岸壁が保存され、当時の写真が展示されている。前回も書いたが公園東南にある「BE KOBE」のモニュメントは、知らない人がいないぐらいに有名で、記念写真スポットとして私などのタイプには、素直に喜べないほど人気がある。

作家司馬遼太郎は、95年震災の2か月後に『月刊神戸っ子』にエッセーを寄せている。題名は『世界にただ一つの神戸』である。司馬は其中で、「会う人のすべてが神戸が好きということに」強い印象を持ったと述べている。そして、阪神淡路大震災以前の神戸は「なんといっても外国人がつくったまちだから」「ハイカラで開かれた町—自由な神戸の精神はしっかり受けつがれている」「ハイカラで自由な神戸—やさしい心根の上に立った美しい神戸が、世界に一つだけの神戸が、きっとこの灰燼の中からうまれてくる」と司馬の神戸観とその未来への思いを書いている。司馬の神戸観は「ハイカラで、自由で、やさしい心根の上に立った美しい神戸」だったのだろうか。

司馬は陳舜臣と同年・同窓ということもあり、戦後から亡くなる1996年まで何度も神戸を訪れている。その度にタクシー運転手や訪問先で、「神戸の人間で神戸が嫌いな人間は一人もいない」と言われ続け、震災直後の寄稿文でもその事実に触れている。それでは神戸の人間—神戸らしさとはどう考えたらいいのだろうか。



2. 波止場町から見る、神戸らしさ

司馬が書いている神戸好きの神戸人や、やさしい神戸は確かにあったのである。そしてそういう世界は、何処かにまだあるにはあるのだが、95年の震災前と後ではやはり大きく変化してしまったのである。「ハイカラで、自由で、やさしい美しさ」を生み出す町としての余裕を失ってしまったのである。復興事業は建物を新調し、道路や公園などを整備したが、震災前の豊かさに至っていない。港湾労働者数も千名以上減らした30年前のままであり、近年は人手不足対策が問われながら、成功していない。

労働力供給基地であった波止場町一弁天町。港職安や港湾荷役会社が近接し住居施設も備えていた地域である。偽名であってもドヤの宿泊証明で青手帳が交付され、働くことができた時代。働くことで日々の生活を維持できた時代。

「仕事があるのに家でゴロゴロしていたら、子供に恥ずかしくないか、女房にすまなくないか、やり直す機会を与えてやる」と経営者も組合幹部も言っていたものである。やれば出来るのにずるをしてさぼる者、能力は低いが一生懸命仕事している者をいじめたりすることは御法度であった。何度も言われたことは、「誤りや失敗は許すが、うそや裏切りは許さない」と云う事である。危険な現場労働における、信頼感の育成が図られていたのである。神戸が開かれた町として発展したのは、外洋に開かれた港とハイカラ文化を受け入れる気質があったからである。そして、この開かれた受け入れる力は、国内だけではなく外国人も含め、多くの人々を神戸に集め、豊かさの礎としたのである。

世の中の豊かさとは、落語の『千両みかん』のように一見無駄に思われる事柄の中にある。震災前は6600名の港湾労働者の2割近くは優等生とは言い難かったかもしれない。しかし、彼らは必要な労働力だったのである。誰かがどこかで書いていたが「日本人は意地悪になってしまった」らしい。日本に「勢い」があった時代。過ちを指摘すると共に「チャンス」を与えることも当然であった。今は「チャンスを与える」よりも「屈辱感を与える」事が増えた、と云う。サディスティックで「不寛容」であることが出来る者の条件と見なしうる時勢とのことである。「日本的美」の破壊は豊かさの反映ではない。ハイカラ文化は軽やかだが、港文化も美意識に左右されてきた。司馬の見なした神戸らしさは、フェニックスのように灰燼の中から生まれてくるのだろうか。

(磯田 和男)

活動報告

①令和6年秋の褒章 受章

令和6年秋の褒章におきまして、次の協議会関係者が受章されました。

栄えある褒章を心よりお祝い申し上げます。

【褒章】

■黄綬褒章

田森 豊 氏(元会長 木下商会相談役)

■藍綬褒章

渡邊 真二 氏(早駒運輸社長)

②大いに盛り上がる！ 2024 X'mas&忘年会 開催

12月6日夜、Harbor Studioを会場に会員87名が参加して、2024 X'mas&忘年会を開催しました。

当日は、永田副会長の開会挨拶、今田副会長の乾杯発声に始まり、恒例となった各社対抗カラオケ大会はハイレベルな戦いの域を超えて、異様な熱気をもって盛り上がりました。

また、島田知衣さん(Vo)のジャズライブも、土井亮トリオの演奏とスウィングして、バックのミュージシャンのソロも心地よく、クリスマスの曲も交えて、じっくり聞かせていただきました。

今回も参加者全員サンタ帽に蛍光色に光るブレスレッドを着け、少し早いクリスマスを全身で楽しみました。

料理も握りずしにピザ等々とたっぷりあり、大満足でした。

そして、会の最後は、会員各社様からの寄贈景品が当たる、お楽しみの大抽選会があり、景品は半数以上の方に当たり、歓声と笑顔があふれ、宮本副会長による締め挨拶も早すぎると驚きを持って迎えられるほど、あっという間のX'masパーティーでした。



会員紹介

合同会社リリー企画

忙しいあなたに寄り添う、効率的なトレーニング空間

この度、ユニオンエージェンシー今田様よりご紹介をいただき、弊社10年目のチャレンジで波止場町へ移転してまいりました。

RE:LY FITNESS(リリーフィットネス)は忙しい毎日の中でも無理なく通える時短トレーニングプログラムをご用意し、効率的に健康を手に入れられる環境を整えています。

当ジムでは、限られた時間で最大の効果を引き出すために、一人ひとりの目標やライフスタイルに合わせたオーダーメイドプランを提供。短時間でも高い成果が期待できるトレーニングメソッドを採用しています。お仕事前や休憩時間、帰宅途中など、隙間時間を活用して無理なく続けられると多くの会員様に好評です。

また、「6歳から83歳までが集まるジム」という特色を活かし、幅広い世代の方が交流できるアットホームな雰囲気も魅力の一つ。体を動かすだけでなく、リフレッシュや気分転換の場としてもご利用いただけます。

仕事とプライベートのバランスを取りながら健康を維持したい方、ぜひ一度体験トレーニングにお越しください。



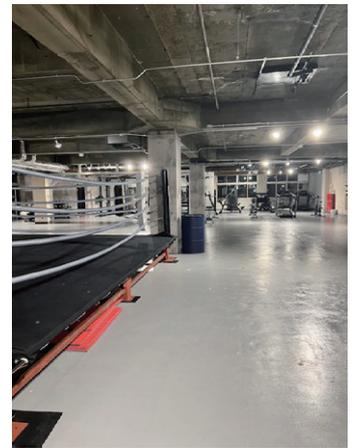
株式会社 SORA

弊社は2012年より鍼灸接骨院を中心に、講演活動や企業向けの健康経営アドバイザーを行なっています。

30年遅れと言われる日本の治療レベルの中で、欧米のガイドラインを椎間板ヘルニアや変形性関節症の治療に取り組み除圧治療と超音波治療を提供します。

医療情報の提供も得意としており、発達障害の研究(develab)や医療用大麻(CBD)の臨床応用も進めております。

さまざまなカルチャーの交差点としての港町神戸で、波止場町に拠点を置くきっかけとともに大好きな神戸の街を盛り上げられたいと思入会させていただきました。



会員一覧

- 株式会社木下商会
- 神菱港運株式会社
- 走水神社
- 株式会社メイフェア
- 全港湾神戸弁天津支部
- 昌栄運輸株式会社
- 住井運輸株式会社
- 株式会社アベストコーポレーション
- 株式会社クリアス
- ニッケル.エンド.ライオンズ株式会社
- 株式会社住友倉庫 神戸支店
- 兵庫県信用組合本店営業部
- 甲陽運輸株式会社
- 早駒運輸株式会社
- 株式会社アテネエンタープライズ
- 二和興業株式会社
- 株式会社ユニオンエージェンシー
- 株式会社ハイファイブ
- 株式会社KDS
- 株式会社ラスweet
- 合同会社リリー企画
- 商船港運株式会社
- 中央港運株式会社
- 株式会社SORA
- A&D MUSIC
- 上津港運株式会社

(順不同)